

# ふれあいひろば

松川町社会福祉協議会 TEL 0265-36-3778 編集・発行 ボランティア連絡会 編集部

\*ボランティアだよりは皆様からご協力いただいた共同募金配分金で発行しています。



## 子どもたちのためにできることを・・・

“NPO法人HUGOは、「共にはぐくみ、一人ではぐれない地域のネットワーク作りを目指して」を理念に、活動しています。

主に、昼間のカフェやお弁当販売、こどもカフェ(こども食堂)フリースクール学習サポートを運営しています。特に毎週水曜日の夕方のこどもカフェでは、100食以上のお弁当がすぐに無くなってしまいう日もあり、子育て世帯の皆さんに大変喜んで頂いています。

フリースクールや学習サポートでは、教育委員会とも連携しながら、地域の子どもたちを地域で育てるための「多様な学びの場」を提供しています。

活動を継続していくには困難もありますが、企業さんや農家さん、ボランティアの方、連携機関や保護者の方など地域の方々の温かい支えが何よりの財産です。「子どもたちのために」と、野菜などを持ってきてくださる方々の存在にも、大変支えられています。松川町の方の優しさに日々感謝です。

そんな温かい輪が循環し、社会の宝である子どもたちの未来に繋がるよう、今後もできることをコツコツと続けていきます。

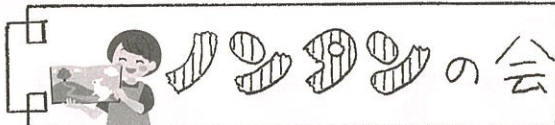
篠田 阿依



「ゆきわり草」って何？

町内の独り暮らしの方などに、お昼のお弁当を配るボランティアをしています。松川荘、味の里で作っていただいたお弁当を、二、三人のメンバーで毎日配っています。「ありがとうございます、おいしくいただいていますよ」と声をかけていただくと、人の役に立っているとうれしくなります。コロナ禍でなかなかお弁当配りができなく、特に今年度はまだ数回でしかありません。一日も早くコロナが終息して安心して活動ができるようになってほしいと思っています。

知久 孔子



「Nontan no Kai」は、価値観の多様化が進む世の中で「皆で子育て」をモットーに絵本の読み聞かせを主としたボランティアのサークルです。(きっかけは平成9年4月からの若妻健康教室)

令和2年の3月ひなまつりスペシャルを前に、新型コロナウイルスの感染拡大の為、定例会もしばらく休会となりましたが、令和3年は夏の2回が休会となっただけで予定通り行うことができました。毎回、三價にならないよう感染対策をして、スタッフも極力、人数を減らし、内容を変えずに続けて来た結果、427回目の「おはなしの会：クリスマス＆お正月スペシャル」をお届けすることができました。久しぶりに会場が丁度、埋まるくらいの参加者に安堵すると共にお父さんやお母さんのひざに抱かれる笑顔いっぱいの子どもの音と変わらぬ光景に胸が熱くなりました。手書きにこだわって来た「Nontan(によう)」は268号をお配りしたところです。

飲食不可の時は、おはなしの会のみ



(会が誕生してから2回目の誕生日です)

場所：中央公民館えみりあ1F交流室  
料金：おやつ代100円(地元のパン屋さんから焼き立て)  
日時：隔週の火曜日(パンが届きます。)  
年3回のスペシャルも含めて年に20回。  
午前10:30～ 申し込み不要。



代表 田中ふじえ



## レンゲツツジの会 交流会



二〇二〇年にコロナ禍となって以来、年に1回行ってきたバスハイクは開催できていません。毎年顔を合わせていたレンゲツツジの会の会員や、参加して下さっていた地域の皆さんとも会って話しをする機会がありませんでした。

そこで昨年、今年と少しづつ規模を大きくしながら会員どうしの交流を目的に、簡単なスポーツでの交流会を行ってきました。

今年は7月2日(土)、午後3時から名子原体育館で、ニュースポーツを体験しました。教メイトル先にある大きな輪にお皿状の物を投げて通すフライングディスクでは、思うようにいかない人を横目にスイスイと輪を通してしまいう人がいてびっくり。又教メイトル先の基板の目にスティックで打ったボールを並べていく用器ボールでは、打ったボールの並べ方や点数の取り方がわかってくるとそれぞれのチームで作戦を立てながら何回もゲームを楽しみました。

会員同士の交流もままならないコロナ禍ですが、これからの活動の形を考えながら、地域の皆さんとも交流できるようにしていけたらと考えています。

北原 紀子

## ホーイ元気？

お盆を迎えて今年も盆棚を整え花を飾ってこれよし、がいつもこれは何だろうと思うものがある。器にナスのさいの目切りを盛り、横に水を入れた器をおき、ミソハギの花穂をさ、6本束ねたものを添える。この度、これが何なのか謎がとけた。きっかけは毎月の今朝の一句「芋穀売り、芋穀知らぬを嘆きけり」私もこの芋穀を知らぬ者であった。

我が家では、迎え火や送り火にはワラを使う。盆ゴザも元々はマコモで編み、それにはそれなりの意味がある。それらからたどって、先ほどのナスのさいの目、これは水の子といい、本来はハスの葉にナス、キュウリのさいの目切り、洗米をのせる。横においた水はあか水という。謂れについても詳しく知ることができた。

これらすべてを教えてくれたのは何とスマホ。私のように知らなかった方はスマホでどうぞ。スッキリします。その上盆飾りセット、大小さまざま、通販で買うことができる、スマホ恐るべし、通販恐るべし。こんな事で驚いたり、感心したりしている私、もしかして遅れている？



熊谷あや子

